

平成24年度第3回森林の未来を考える懇談会資料

関連する県の個別計画について

- 福島県農林水産業振興計画見直し案(中間整理案)
の概要について
- 福島県復興計画(第2次)素案(抄)

平成24年12月25日

福島県農林水産部森林計画課

福島県農林水産業振興計画見直し案（中間整理案） の概要について

平成24年12月17日

福島県農林水産部

1 見直しの理由

東日本大震災及び原子力災害など、本県を取り巻く社会経済情勢が計画策定時の想定を大きく超えて変化していることから、福島県総合計画の見直しに併せ、部門別計画である農林水産業振興計画の見直しを行う。

2 見直しの視点

県民の理解の下、農林漁業者が将来に対して希望を持って生産活動に取り組むことができるような内容に取りまとめることを目標として、次の視点により見直しを行う。

- (1) 変化した社会経済情勢の反映
- (2) 復興ビジョン・復興計画の内容の反映
- (3) 総合計画との整合
- (4) 指標の見直し

3 見直し作業の経過

平成24年5月	福島県農業振興審議会、森林審議会、 水産業振興審議会へ諮問
8月・9月	各審議会における見直し案（たたき台）の審議
10月・11月	農林漁業者等との意見交換
11月	各審議会における見直し案（中間整理案）の審議

4 見直し案（中間整理案）の概要

(1) 計画期間 第1章

総合計画を踏まえ、子どもたちが社会を担う将来の本県農林水産業のあるべき姿を描きつつ、平成25年度から平成32年度までの8か年計画とする。

(2) 農林水産業・農山漁村をめぐる情勢 **第2章**

「東日本大震災及び原子力災害の発生」など農林水産業・農山漁村をめぐる情勢変化や本県の特徴、現状と役割について整理する。

(3) 農林水産業・農山漁村のめざす姿 **第3章**

現行計画に掲げる4つのめざす姿に加え、新たに「東日本大震災及び原子力災害からの復興」を位置づける。

なお、基本目標については、総合計画の基本目標等を踏まえ、今後検討していく。

(新規)東日本大震災及び原子力災害から復興を果たした

農林水産業・農山漁村

(継続)消費者の期待に応え、安全・安心な農林水産物を提供する農林水産業

(継続)県民のくらしを支え、持続的に発展する農林水産業

(継続)多様な人が集う、いきいきとした活力ある農山漁村

(継続)美しい自然環境を次世代に引き継ぐ、環境と共生する農林水産業

(4) 施策の展開方向 **第4章**

めざす姿の実現に向けて、新たに「東日本大震災及び原子力災害からの復興」の項目を加えた7つの体系により施策を展開する。

また、「魅力ある農山漁村の形成」に「地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入促進」を新たに盛り込む。

(新規)東日本大震災及び原子力災害からの復興

○避難地域における農林水産業の再生

○生産基盤の復旧

○被災した農林漁業者等への支援

○放射性物質による影響の除去

(継続)安全・安心な農林水産物の提供

(継続)農業の振興

(継続)林業・木材産業の振興

(継続)水産業の振興

(継続)魅力ある農山漁村の形成

○地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入促進

(継続)自然・環境との共生

(5) 重点戦略 **第5章**

復興計画に掲げる農林水産業再生プロジェクト等を踏まえ、現行計画の8つの重点戦略について組み替えを行うとともに、新たに「避難地域等における農林水産業再生」、「水産業の活性化」、「地域資源を活用した再生可能エネルギー導入促進」に係る戦略を設定する。

(新規)戦略1 避難地域等における農林水産業再生プロジェクト

(組替)戦略2 安全・安心な農林水産物供給プロジェクト

(組替)戦略3 農業担い手育成プロジェクト

(継続)戦略4 「ふくしまの恵みイレブン」強化プロジェクト

(継続)戦略5 地域産業6次化の推進プロジェクト

(組替)戦略6 農山漁村の防災力・減災力の強化プロジェクト

(継続)戦略7 県産材フル活用の促進プロジェクト

(新規)戦略8 水産業の活性化プロジェクト

(新規)戦略9 地域資源を活用した再生可能エネルギー導入促進プロジェクト

(6) 地方の振興方向 **第6章**

7つの生活圏毎に「地方の特色」と「現状と課題」を整理し、「振興方向」、「重点的な取組内容」を定める。

(7) 計画実現のために **第7章**

これまで以上に、県民、農林漁業者、商工業者、関係団体、市町村など様々な主体との連携、協力を強化していくことが重要であり、共に支える絆づくりを推進する。

進ちよく状況を毎年点検するなど計画の進行管理を行い、着実かつ効果的な施策展開を図る。

(8) 施策の達成度を測る指標（別紙のとおり）

「第4章 施策の展開方向」にあっては、施策の達成度を測る指標を盛り込むこととしており、東日本大震災及び原子力災害からの復興関係の指標を追加するなど、109の指標を設定する（現行102）。

なお、指標の設定に当たっては、震災前の水準への回復を基本に、農林漁業者が将来に対して希望を持てるような目標値を掲げる。

5 今後の日程(想定)

平成24年12月 県民意見公募(パブリック・コメント)

平成25年2月 各審議会における答申案の審議

各審議会からの答申

3月 策定

福島県農林水産業振興計画見直し案(中間整理案)の概要

平成24年12月17日
福島県農林水産部

第1章 総説

計画策定の趣旨 東日本大震災及び原子力災害など急激な情勢変化を受けて現行計画を見直す

計画の位置づけ ■福島県総合計画の農林水産分野の計画
■福島県農業・農村振興条例第19条に定める基本計画
■本県農林水産業・農山漁村に関する各種計画の上位計画

計画期間 平成25年度～平成32年度(8か年計画)

第3章 ふくしまの農林水産業・農山漁村のめざす姿

《基本目標》

※総合計画の基本目標等を踏まえながら、今後検討する。

《子どもたちが社会を担う将来においてめざす姿》

東日本大震災及び原子力災害から復興を果たした農林水産業・農山漁村

- ・生産基盤の復旧
- ・農地、森林等の除染
- ・故郷への帰還と生産活動の再開 等

消費者の期待に応え、安全・安心な農林水産物を提供する農林水産業

- ・安全・安心な農林水産物の提供

県民の暮らしを支え、持続的に発展する農林水産業

- ・新たな経営・生産方式の導入 等

多様な人が集う、いきいきとした活力ある農山漁村

- ・海岸防災林等、災害に強い農山漁村づくり
- ・再生可能エネルギー生産の導入 等

美しい自然環境を次世代に引き継ぐ、環境と共生する農林水産業

- ・環境の再生 等

第2章 農林水産業・農山漁村をめぐる情勢

《農林水産業・農山漁村をめぐる情勢変化》

- ◎ 東日本大震災及び原子力災害の発生
 - ・多くの県民が避難、帰還の見通し立たず
 - ・農林水産物の出荷制限、風評被害 等
- ◎ 安全・安心に対する意識の変容
 - ・世界の中でも極めて低いレベルの基準値の設定 等
- ◎ 人口減少及び高齢化の進行
- ◎ 世界経済の一体化と多極化の進行
 - ・TPP交渉 等
- ◎ 地球温暖化の進行と再生可能エネルギーへの期待の高まり
- ◎ 本県の特徴的な取組
 - 除染
 - 絆づくり
 - 地域産業6次化

《福島県の農林水産業・農山漁村の特性》

- ◎ 広大な県土・豊かな自然条件
- ◎ 有利な地理条件
- ◎ 調和のとれた7つの生活圈
- ◎ ねばり強く、温かな県民性
- ◎ 県民の意識
 - 農山漁村への期待
 - 農林水産物の購入に関する意識

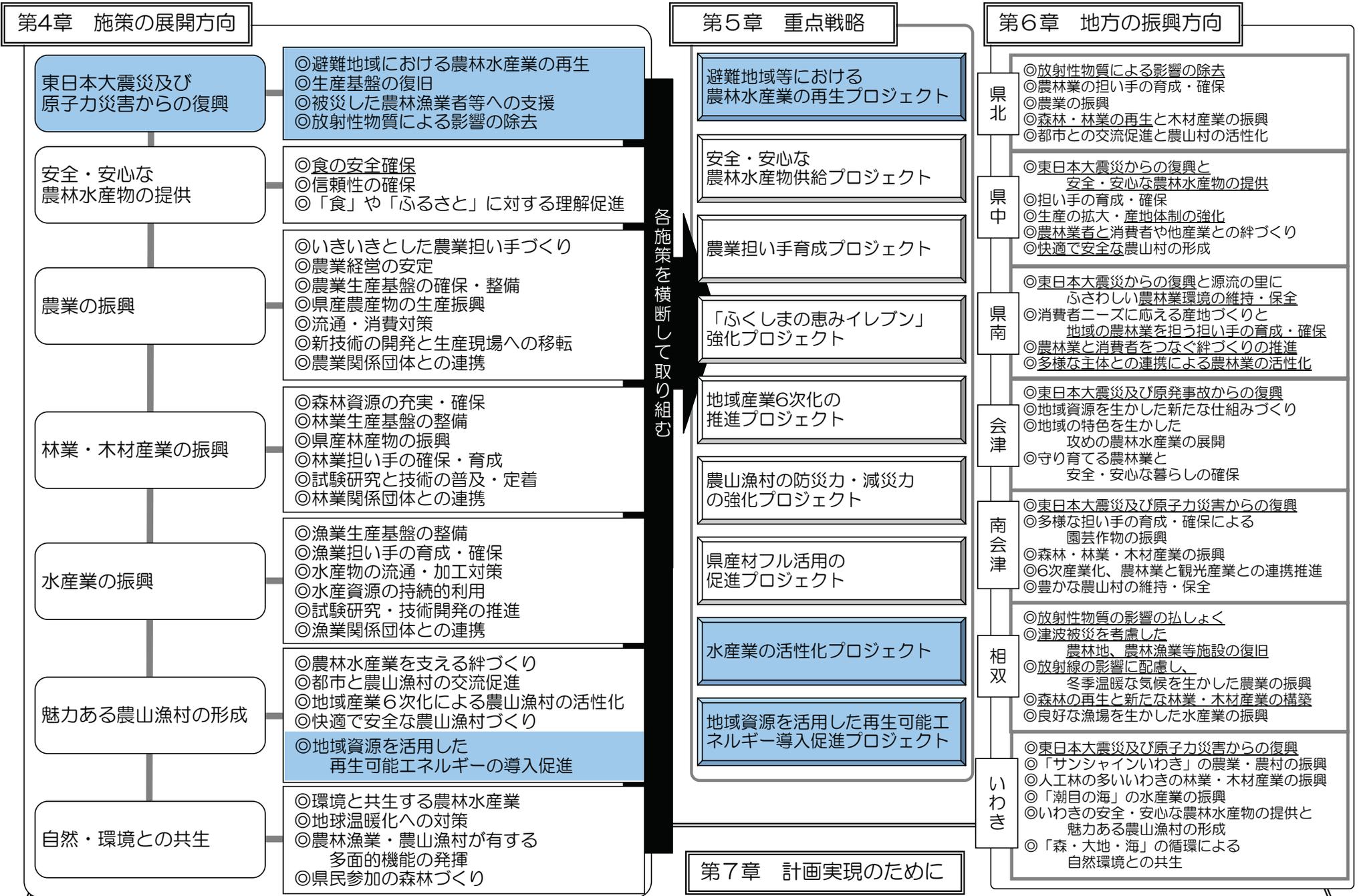
《福島県の農林水産業の現状と役割》

- ◎ 東日本大震災及び原子力災害の発生
 - ・作付制限、沿岸漁業操業自粛 等
- ◎ 農業資源
- ◎ 森林資源
- ◎ 水産資源
- ◎ 農林水産業の就業者と産出額
- ◎ 福島県の主要な農林水産物
- ◎ 農林水産業・農山漁村の役割
 - 食料や木材の安定供給
 - 地域経済への貢献
 - 地域社会の形成
 - 多面的機能の発揮

(8-5)

〔福島県農林水産業振興計画見直し案(中間整理案)の概要について〕

※網掛けは現行計画に新たに盛り込んだ内容、下線は現行計画を修正した内容を示す。

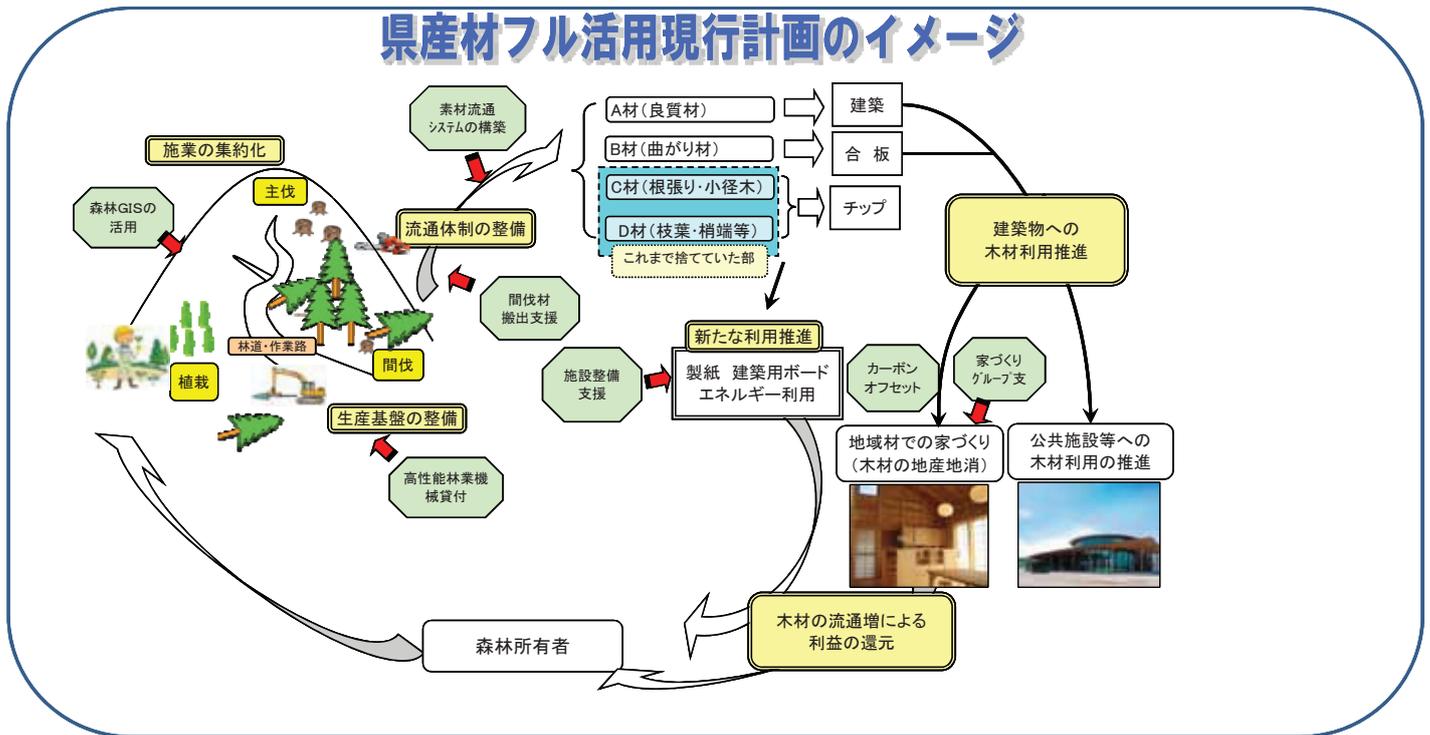


◎消費者、農林漁業者、関係者等の相互理解と連携を深める「絆づくり運動（仮）」の展開
 ◎各種施策の進ちょく状況や成果を毎年点検・評価し、農林漁業者、消費者の声を的確に把握して着実かつ効果的に施策を展開

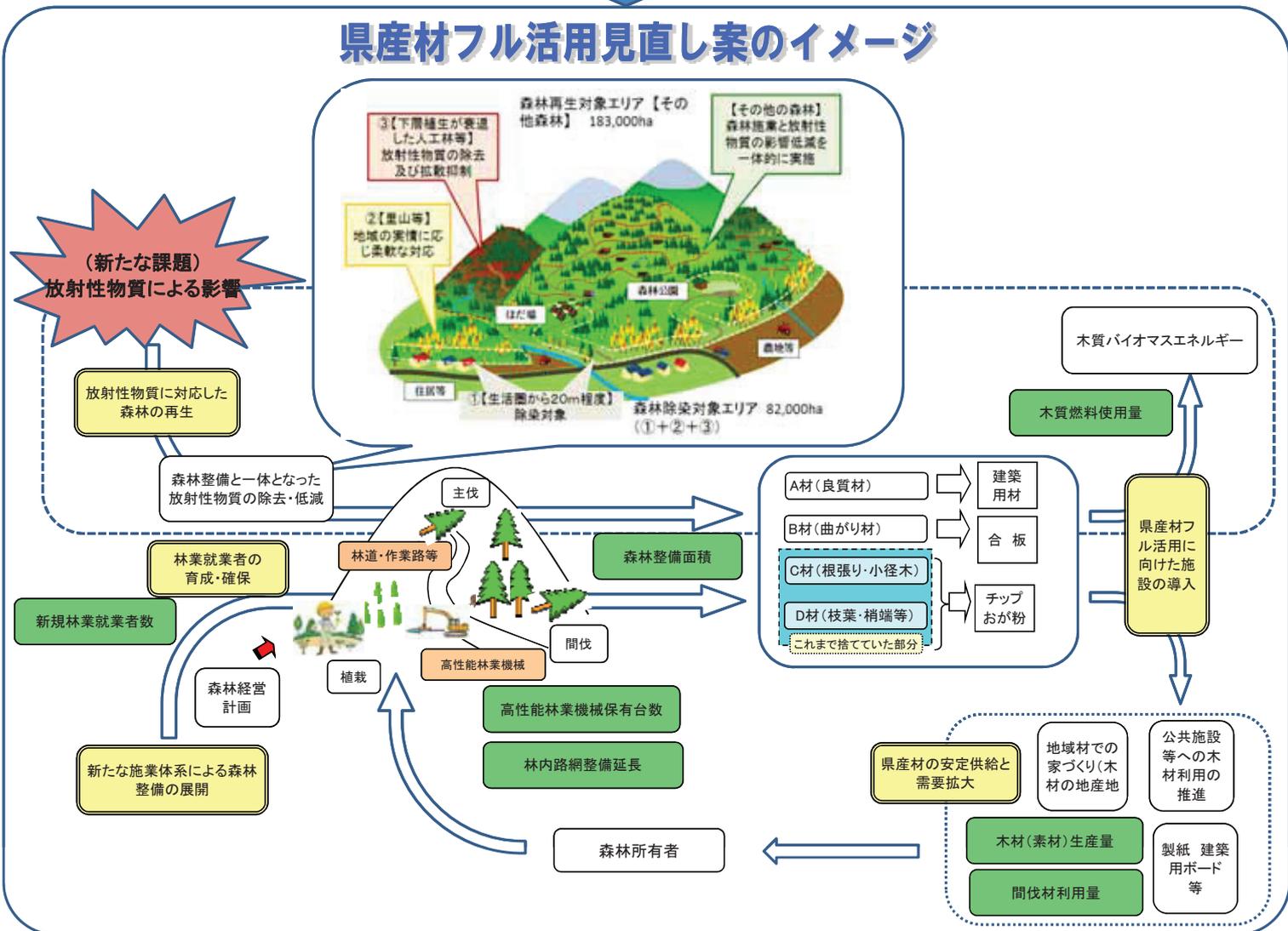
※網掛けは現行計画に新たに盛り込んだ内容、下線は現行計画を修正した内容を示す。

県産材フル活用の促進イメージ図

県産材フル活用現行計画のイメージ

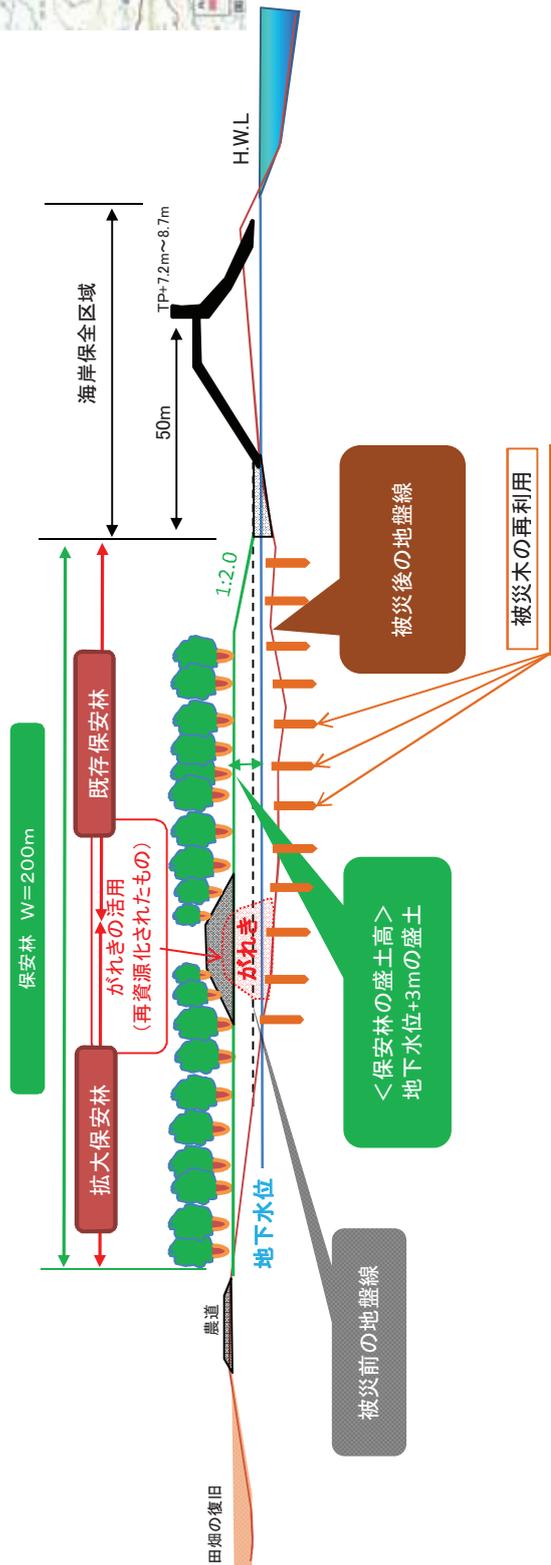


県産材フル活用見直し案のイメージ

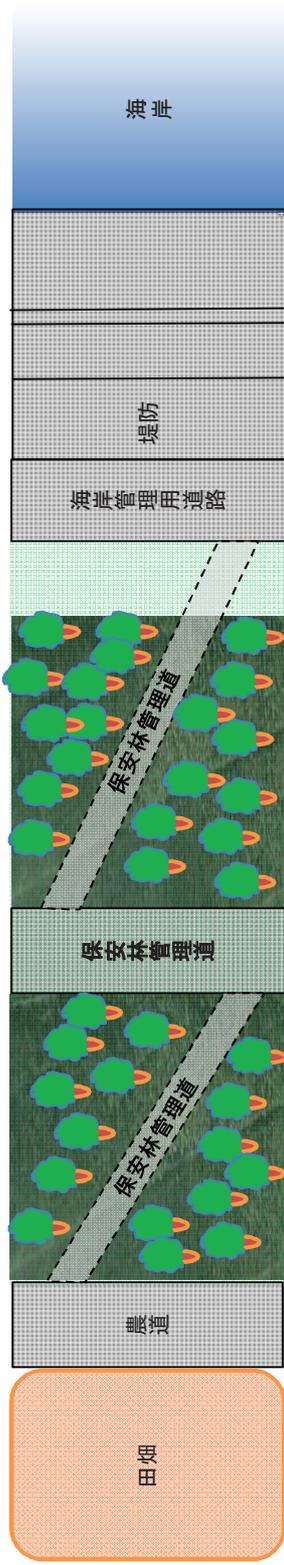


海岸防災林の復旧イメージ図

<横断面>



<平面図>



<関連指標>

海岸防災林整備延長
16, 800m

治山施設の復旧率
100%

保安林指定面積
124, 500ha

<位置図>



福島県復興計画（第2次）

～未来につなげる、うつくしま～

（素案）

平成24年 月
福 島 県

This page intentionally left blank.

福島県復興計画（第2次）の構成

I はじめに

- 1 復興計画策定の趣旨・策定までの経過
- 2 復興計画の性格

II 基本理念

- 原子力に依存しない[※]安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり
- ふくしまを愛し、心を寄せるすべての人々の力を結集した復興
- 誇りあるふるさと再生の実現

※国・原子力発電事業者に対して、県内の原子力発電所の全基廃炉を求めている。

III 主要施策

III-i 復興へ向けた重点プロジェクト

安心して住み、暮らす	ふるさとで働く	まちをつくり、人とつながる
① 環境回復 ② 生活再建支援 ③ 県民の心身の健康を守る ④ 未来を担う子ども・若者育成	⑤ 農林水産業再生 ⑥ 中小企業等復興 ⑦ 再生可能エネルギー推進 ⑧ 医療関連産業集積	⑨ ふくしま・きずなづくり ⑩ ふくしまの観光交流 ⑪ 津波被災地復興まちづくり ⑫ 県土連携軸・交流ネットワーク基盤強化

復興のために重要な取組を抽出し、プロジェクトとして示した。

III-ii 具体的取組

- 原子力災害の克服
- 再生可能エネルギーの飛躍的推進による新たな社会づくり
- 災害に強く、未来を拓く社会づくり
- 新たな時代をリードする産業の創出
- 地域のきずなの再生・発展
- 未来を担う子ども・若者の育成
- 市町村の復興支援・生活再建支援・応急的復旧

III-iii 地域別の取組



IV 復興の実現に向けて

- 1 情報の発信
- 2 民間団体や県民等との連携
- 3 市町村との連携
- 4 国への要請
- 5 復興に係る各種制度の活用
- 6 実効性の確保

復興へ向けた重点プロジェクト 全体図

安心して住み、暮らす

- 1 環境回復プロジェクト
- 2 生活再建支援プロジェクト
- 3 県民の心身の健康を守るプロジェクト
- 4 未来を担う子ども・若者育成プロジェクト

ふるさとで働く

- 5 農林水産業再生プロジェクト
- 6 中小企業等復興プロジェクト
- 7 再生可能エネルギー推進プロジェクト
- 8 医療関連産業集積プロジェクト

まちをつくり、人とつながる

- 9 ふくしま・きずなづくりプロジェクト
- 10 ふくしまの観光交流プロジェクト
- 11 津波被災地復興まちづくりプロジェクト
- 12 県土連携軸・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト

1 環境回復プロジェクト

目指す姿

- 県民のふるさとへの一刻も早い帰還や安心して生活できる環境の確保に向け、放射性物質に汚染された生活圏、農地、森林などの徹底した除染及び汚染廃棄物の円滑な処理により、美しく豊かな県土が回復している。
- 農産物など食品の検査体制強化及び安全・安心に関する情報提供により流通・消費における安全が確保され、県内で生産された食品が安心して消費されている。

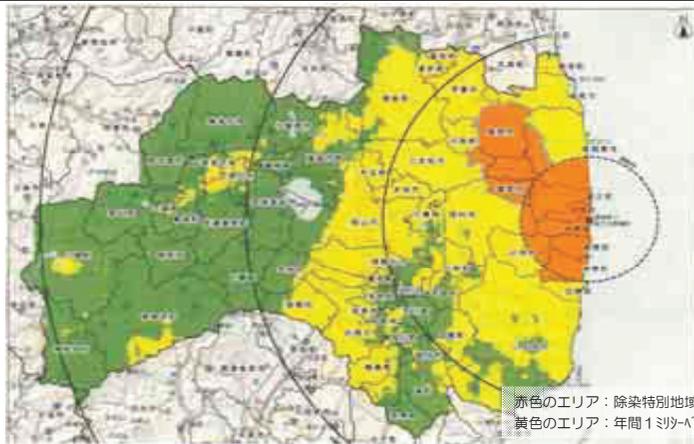
プロジェクトの内容

1 除染の推進

- 全県におけるモニタリングの充実・強化
国や市町村と連携して県内の空間線量率の状況や河川、海、土壌などの放射性物質による汚染状況を把握するとともに、その動態を解明し、わかりやすく公開
- 生活圏（家屋・庭、道路、学校、幼稚園・保育園・保育所・公園など）、農地、森林などについて、放射性物質汚染対処特措法に基づき、国、県、市町村などが連携して除染を実施し、その効果を確認（除染実施計画の策定・実施に当たっては、他地域へ影響を及ぼさないよう配慮）
 - 除染特別地域
〔実施主体〕国 〔目標〕段階的かつ迅速に縮小
 - その他の地域
〔実施主体と除染対象〕国：国が管理する土地・施設等
県：県が管理する土地・施設等
市町村：各除染実施計画に基づく除染対象
特定避難勧奨地点は、市町村の除染実施計画に基づき優先的に実施

〔長期的目標〕追加被ばく線量が年間1ミリシーベルト（＝毎時0.237マイクロシーベルト）以下
〔短期的目標〕平成25年8月末までに

 - ・県民の追加被ばく線量 約50%減少
 - ・子どもの追加被ばく線量 約60%減少
- 農林地等の除染
 - ・農地等については、県産農産物等から放射性セシウムが検出されないことを目標として実施
 - ・森林については、国が決定する実施方針の下、地域の実情に応じた森林除染を進める。
- 仮置場等の確保、維持管理
 - ・放射線の影響や除染に関する不安・疑問を解消し、安全・安心を醸成して仮置場等の確保を進める。



赤色のエリア：除染特別地域
黄色のエリア：年間1ミリシーベルト以上

2 食品の安全確保

- ・農産物などのモニタリング体制の強化、住民自らが身近なところで食品を検査できる環境の整備

3 汚染廃棄物の処理

- 汚染・災害廃棄物の円滑な処理
- ・汚染廃棄物の一時保管量 下水汚泥等 約5万7千トン、焼却灰約4万6千トン など
 - ・災害廃棄物の発生見込量 約3,668千トン
 - ・農業系汚染廃棄物の一時保管量 約19万7千トン
 - ・処理施設の確保

4 拠点の整備

- ・環境放射線モニタリング強化機能をはじめ、環境回復のための調査研究機能、情報発信機能、教育研修機能を備えた拠点施設の整備
(※研究者及び研究機関のネットワーク構築などによる医療の拠点等との連携)
- ・国内外の研究機関の誘致

5 事故の収束及び廃炉に向けた監視態勢の強化

- 事故の収束及び廃炉作業の安全確認態勢の強化
- ・原子炉の安全確保
 - ・監視組織の設置、廃炉作業関係情報の県民への提供
 - ・廃炉作業員の健康管理の監視



2 生活再建支援プロジェクト

目指す姿

帰還する避難者、長期避難者など被災者それぞれのおかれた状況に応じた、よりきめ細かな支援が行われ、全県民が将来の生活設計を描くことができ、生活再建を進めている。

1 県内避難者支援

情報
○相談窓口の設置
○行政情報、生活情報などに関する福島県、避難元自治体、避難先自治体からのきめ細かな情報提供

賠償
○賠償金の請求支援

住環境
○コミュニティの確保
○住まいに関する相談窓口の継続
○応急仮設住宅（借上げ住宅）の供与期間延長、住み替えへの柔軟な対応
○県内自主避難者への対応
○恒久住宅への円滑な移行
○二重ローンの利子補給 

保健医療福祉
○甲状腺検査、内部被ばく検査の実施
○避難の長期化に伴う心のケアや孤立化防止
○避難先における子育て支援、介護サービスや障がい者福祉サービスの確保

教育
○子どもの就学機会の確保
○サテライト校などの教育環境の整備

雇用
○就職相談・職業訓練の実施
○企業の事業再開のための多様な支援
○避難先での営農再開に向けた支援
○緊急雇用創出基金活用による雇用の確保

治安
○仮設住宅及び周辺地域等における治安維持確保
○帰還困難区域等所在宅の防犯・防火

3 長期避難者等の生活拠点の整備

- 長期避難者等の生活拠点の整備
- 生活拠点に必要な機能の整備
- 受入自治体との調整、受入にあたっての支援



6 避難者を支える仕組み等

- 避難者を把握するための仕組みづくり
- 居住証明の仕組みづくり
- 子ども・被災者支援法の活用
- 個人情報保護法（条例）の弾力的運用

4 帰還に向けた取組 (旧・緊急時避難準備区域、津波・豪雨災害等被災地を含む)

各重点プロジェクトでの対応

安心して住み、暮らす

- 除染の加速
- 廃炉作業の監視強化
- 廃棄物の迅速な処理
- 放射線に関するリスクコミュニケーション
- 内部被ばく未然防止対策
- コミュニティの再生
- 生活インフラの復旧整備
- 治安体制の整備
- 復旧・復興に従事する人の宿泊場所の確保
- 住まいの再建・確保に対する支援
- 公営住宅の整備
- 保健・医療・福祉提供体制の再構築
- 教育環境の整備

ふるさとで働く

- 農林水産業の再生
- 雇用の確保
- 企業の事業再開に向けた多様な支援
- 企業誘致
- 就職相談・職業訓練の実施
- 新たな産業の創出

まちをつくり、人とつながる

- 復興の姿や帰還に向けた情報発信
- 復興まちづくりの支援
- 復興の基盤となる道路網の早期整備

福島県  他都道府県

県外避難者への支援連携

2 県外避難者支援

情報
○相談窓口の設置
○ふくしまの今の姿や行政情報、生活情報などに関する福島県、避難元自治体、避難先自治体からのきめ細かな情報提供

賠償
○賠償金の請求支援

住環境
○交流の場の提供などによるコミュニティの確保
○住まいに関する相談窓口の継続
○借上住宅の供与期間延長、住み替えへの柔軟な対応

保健医療福祉
○県外医療機関の協力による甲状腺検査、内部被ばく検査の実施
○避難先自治体との連携による避難の長期化に伴う心のケアや孤立化防止
○避難先における子育て支援、介護サービスや障がい者福祉サービスの確保の要請

教育
○避難先自治体との連携による子どもの就学機会の確保

雇用
○巡回等による就職相談や国、避難先自治体による職業訓練の実施
○国や避難元・避難先自治体との連携による避難先での営農再開に向けた支援

5 ふるさとへ帰還しない人への支援

- ・県内での住宅再建の支援
- ・ふくしまの今の姿の情報発信 等

生活再建へ



※ 9 ふくしま・きずなづくり

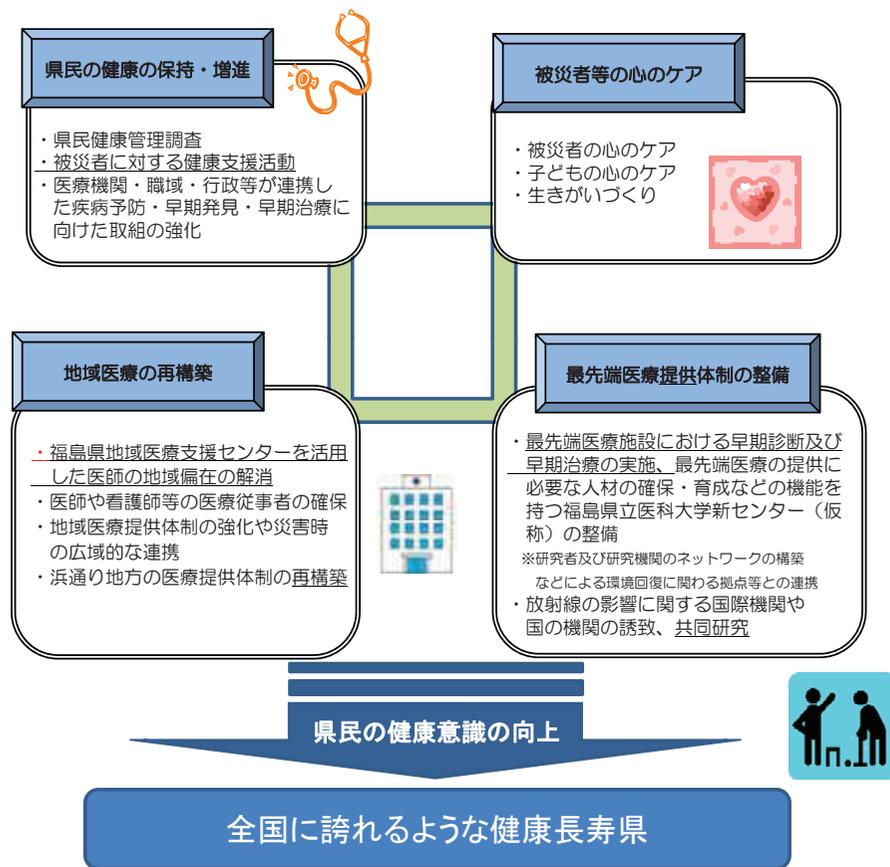
3 県民の心身の健康を守るプロジェクト

目指す姿

長期にわたる県民の健康の見守り等を通して、これまで以上に県民の心身の健康の保持・増進を図ることで、全国にも誇れるような健康長寿県となっている。

プロジェクトの内容

- 1 県民の健康の保持・増進
- 2 地域医療の再構築
- 3 最先端医療提供体制の整備
- 4 被災者等の心のケア



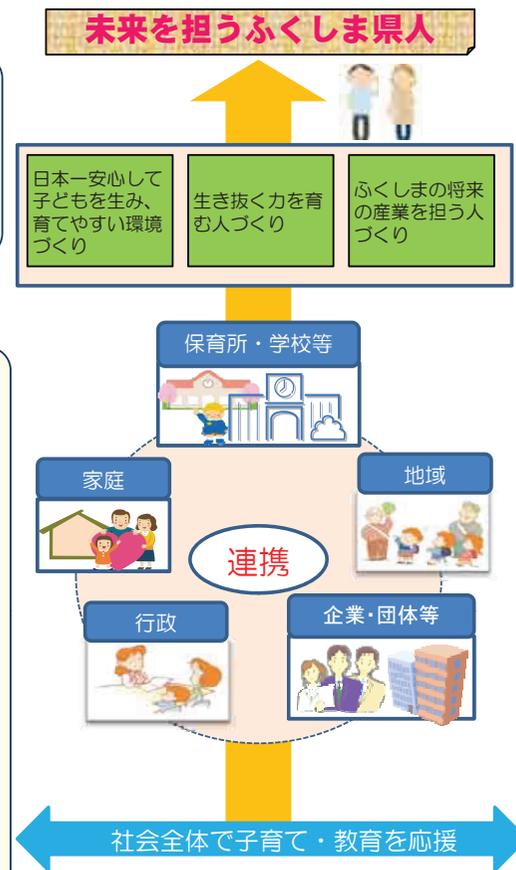
4 未来を担う子ども・若者育成プロジェクト

目指す姿

子どもやその親たちが安心して生活ができ、子育てがしたいと思えるような環境が整備され、子どもたちが心豊かにたくましく育ており、ふくしまの再生を担っている。

プロジェクトの内容

- 1 日本一安心して子どもを生み、育てやすい環境づくり
 - ・放射性物質汚染により生じた不安の解消
 - ・震災後におけるふくしまならではの地域ぐるみの子育て体制の構築
 - ・18歳以下の医療費無料化
- 2 生き抜く力を育む人づくり
 - ・震災を踏まえた確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成
 - ・理数教育、防災教育の充実や国際化の進展に対応できる人づくりなど、ふくしまならではの教育の推進
 - ・長期避難に対応した教育環境の整備
- 3 ふくしまの将来の産業を担う人づくり
 - ・高度な知識・技能を備えた人材や地域産業のニーズに応えられる人材の育成



5 農林水産業再生プロジェクト

目指す姿

消費者への魅力にあふれ、安全・安心な農林水産物の提供を通して、本県の農林水産業の持つ力が最大限に発揮され活力に満ちている。

プロジェクトの内容

1【安全・安心を提供する取組】

- 農林漁業者自らが安全を確認できる体制の構築
- 有機農業やGAP（適正な生産工程管理）など、安心を高める取組の推進
- 米の全量全袋検査など検査体制の強化と情報の「見える化」を進め、世界一安全・安心な農林水産物の消費者への提供

プロジェクトの内容

2【農業の再生】

- ほ場の大区画化等の基盤整備や、新たな経営・生産方式の導入による競争力の回復
- 地域産業の6次化による生産性の高い農業の確立
- 生産資源の回復

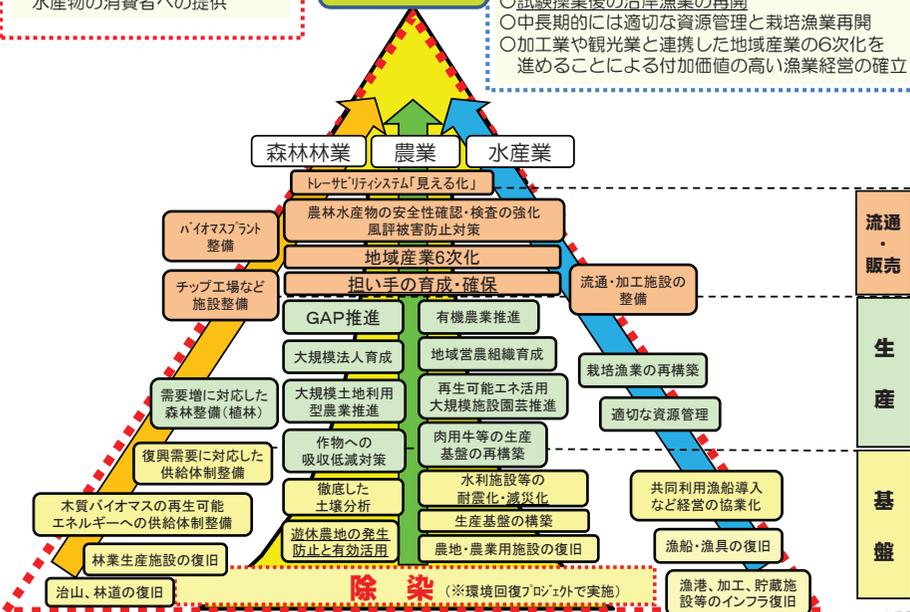
3【森林林業の再生】

- 森林施業と放射性物質の除去・低減を一体的に実施
- 木質バイオマスを再生可能エネルギーの原料として活用
- 復興需要に対応した供給体制の整備

4【水産業の再生】

- 甚大な被害を被った漁港・漁船・施設等の復旧
- 試験操業後の沿岸漁業の再開
- 中長期的には適切な資源管理と栽培漁業再開
- 加工業や観光業と連携した地域産業の6次化を進めることによる付加価値の高い漁業経営の確立

農林水産業の再生



プロジェクトの内容

5【区域見直しに伴う対応】

- 避難地域における農林水産業の再生
 - ・放射性物質の影響排除などの試験研究等を行う研究拠点の整備
 - ・農用地、森林等の除染
 - ・新たな経営・生産方式の導入
 - ・検査体制の強化と情報の提供
 - ・農林漁業者への技術支援
 - ・経営支援

6 中小企業等復興プロジェクト

目指す姿

地域経済の担い手である中小企業等が活力に満ち、新たな雇用の場と収入が確保され、本県経済が力強く発展している。

プロジェクトの内容

1 県内中小企業等の振興

(1) 復旧・復興

- ・被災中小企業等の事業再開・継続支援の推進
- ・産業基盤の整備
- ・商業の振興
- ・二重債務などへの金融対策
- ・復興まちづくり会社設立の推進
- ・ハイテクプラザ等による研究開発の促進
- ・起業支援の強化
- ・帰還する中小企業への支援

(2) 販路開拓、取引拡大

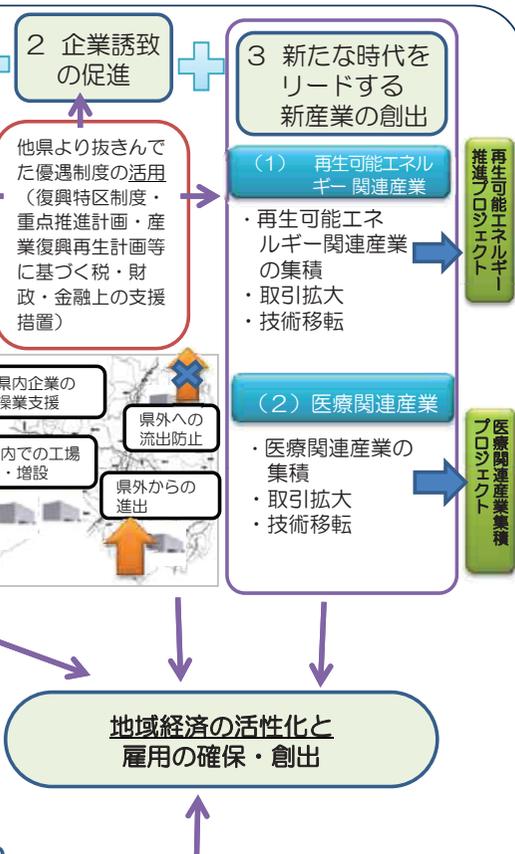
- ・加工食品や工業製品の放射線量測定
- ・県産品のブランド化及び販売促進
- ・中小企業の海外取引の支援
- ・加工食品や工業製品の販路拡大の推進

(3) 人材育成

- ・テクノアカデミー等による人材育成

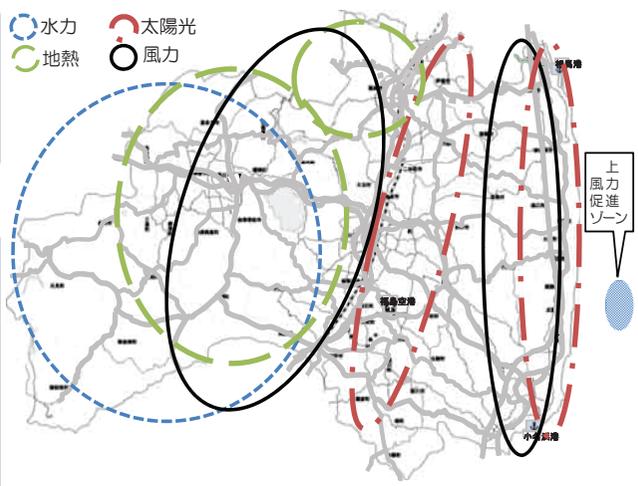
5 区域見直しに伴う対応

被災中小企業等の事業再開・継続支援や、企業誘致、新たな産業の創出の、より力強い推進



7 再生可能エネルギー推進プロジェクト

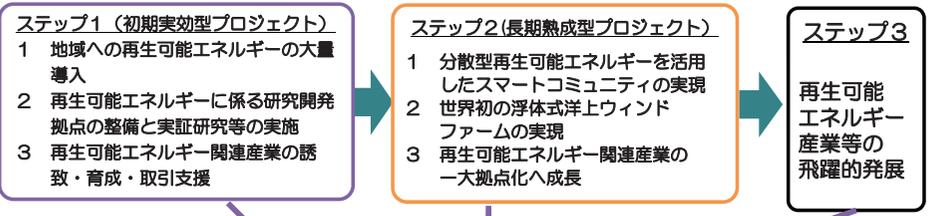
再生可能エネルギー資源に恵まれている地域のイメージ



※バイオマスや小水力（,000KW以下）などについては、県全域で導入の可能性が考えられます。

目指す姿
再生可能エネルギーが飛躍的に推進され、原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会へ向けた取組が進んでいる。

- プロジェクトの内容**
- 1 太陽光、風力、地熱、水力、バイオマスなど再生可能エネルギーの導入拡大
 - 2 再生可能エネルギーに係る最先端技術開発などを実施する研究開発拠点の整備
 - 3 再生可能エネルギー関連産業の誘致、県内企業の参入及び取引支援
 - 4 スマートコミュニティ等による再生可能エネルギーの地産地消の推進



雇用の創出
持続的に発展可能な社会の実現

8 医療関連産業集積プロジェクト

目指す姿
最先端の放射線医学の研究や診断・治療技術の高度化などに関連した形で、我が国をリードする医療関連産業の集積地域となっている。

プロジェクトの内容
医療福祉機器産業の集積
2 創薬拠点の整備

1 医療福祉機器産業の集積

- 医療機器開発・安全評価拠点の整備
技術開発と安全性（生物学的安全性等）を総合的に評価する拠点を整備
- ふくしま医療福祉機器産業推進機構の設立
拠点の運営や薬事支援、事業化支援、人材育成等を実施
- 医療福祉機器・介護ロボット開発ファンドの創設
医療・介護ロボット等から一般医療機器までの開発、試作・臨床研究・治験等を対象に経費補助
- 国際的先端医療機器の開発・実証
世界初のBNCTの開発実証や手術支援ロボットの開発・実証について経費補助
- 県内企業の参入及び取引支援
産学官が連携し、医療現場のニーズ収集から研究開発、事業化、販路拡大までを一體的に支援

2 創薬拠点の整備

- ふくしま医療産業振興拠点（創業）の整備
- 産学官共同研究施設の整備
 - データ管理センターの整備
 - 分析機器・先端医療機器等の整備
 - 治療薬・診断薬の開発
がん・性腫瘍
泌尿器疾患
神経疾患
その他

雇用の創出
我が国の医療関連産業をリード

復興計画 重点プロジェクト

9 ふくしま・きずなづくりプロジェクト

目指す姿

県内外に避難している県民の心がふくしまとつながり、避難されている方々がふるさとに帰還することができるよう、地域コミュニティのきずなが再生・発展するとともに、震災を契機とした新たなきずなが構築されている。

プロジェクトの内容

1 福島県内におけるきずなづくり

- ・仮設住宅等におけるコミュニティ活動への支援
- ・県民による復興活動への支援
- ・市町村等による地域づくりへの支援
- ・避難住民に対する情報や交流の場の提供



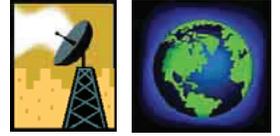
2 県外避難者やふくしまを応援している人とのきずなづくり

- ・県内外の避難者へ電子回覧板等により情報を発信するとともに、避難者の向を把握する等双方向の取組の推進
- ・県外における相談・情報提供窓口等の設置
- ・スポーツや伝統文化、農産物の販売などを通じた交流
- ・ふくしまを応援してくれる人に対する感謝を踏まえての交流の取組
- ・「がんばろう ふくしま！」応援店の拡大



3 ふくしまにおける復興へ向けた取組や情報の発信

- ・ふくしまで頑張っている個人、団体の発掘
- ・テレビ、インターネットなどあらゆる媒体を複合的に活用した国内外へ向けた正確な情報の発信
- ・ふくしまをテーマとした会議等の開催や誘致
- ・ふくしまの復興の姿の発信
- ・復興に向けた県のスローガン「ふくしまから はじめよう」の浸透
- ・緑豊かな県土の再生を全国に発信する全国植樹祭の開催



4 ふるさとに帰還しない人とのきずな維持

- ・ふくしまの復興の状況や正確な情報の発信や提供
- ・県人会等組織への支援
- ・転居先自治体との連携による行政サービスの支援

復興計画 重点プロジェクト

10 ふくしまの観光交流プロジェクト

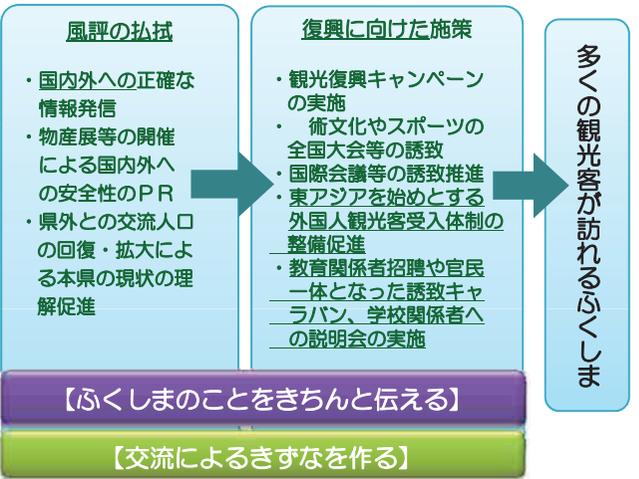
目指す姿

ふくしまの誇る観光資源に一層磨きをかけるとともに 術・化やスポーツ等のイベントを誘致することなどにより、国内外から多くの観光客等が訪れている。



プロジェクトの内容

- 1 テレビ等のマスメディアや旅行会社、交通事業者等とのタイアップや食との連携など、県内市町村、観光事業者が一丸となった観光復興キャンペーンの実施
- 2 観光資源の磨き上げ、国内外の会議や芸術文化・スポーツ等の大会・イベントの積極的な誘致・開催、教育旅行の再生、福島空港の活用などによる観光と多様な交流の推進



1 1 津波被災地復興まちづくりプロジェクト

津波被災地域のまちづくりの検討プロセス

目指す姿

津波により甚大な被害を受けた沿岸地域において、「減災」という視点からソフト・ハードが一体となり、防災機能が強化されたまちが生まれている。

プロジェクトの内容

- 1 海岸堤防の嵩上げ、海岸防災林、防災緑地、道路、鉄道など、複数の手法を組み合わせた「多重防御」による総合的な防災力が向上したまちづくり
- 2 各種防災計画の見直し、防災訓練の強化や防災リーダーの育成などによる防災意識の高い人づくり・地域づくり
- 3 地域とともに取り組む土地利用の再編や復興のまちづくり計画策定及び実施

復興への思いの共有

- 津波被災地域の土地利用パターン
- 津波への対応方針に応じた土地利用区分

(ハード整備) 海岸堤防・海岸防災林・防災緑地・河川改修・道路整備・鉄道の施設・再生エネルギーの活用・情報基盤の強化等

(ソフト対策) 防災訓練・防災教育・ハザードマップ等

- 土地利用区分に応じた
- 住宅再建方策（原居住地での再建、集団移転等）
 - 生活再建方策（農業、漁業、商業、工業、再建支援方策）
 - 農地・漁港再生
 - 市街地再生 等

被災者（住民）

提示説明

行政

市 町 村

意向

復興まちづくりのイメージ



(8 - 19)

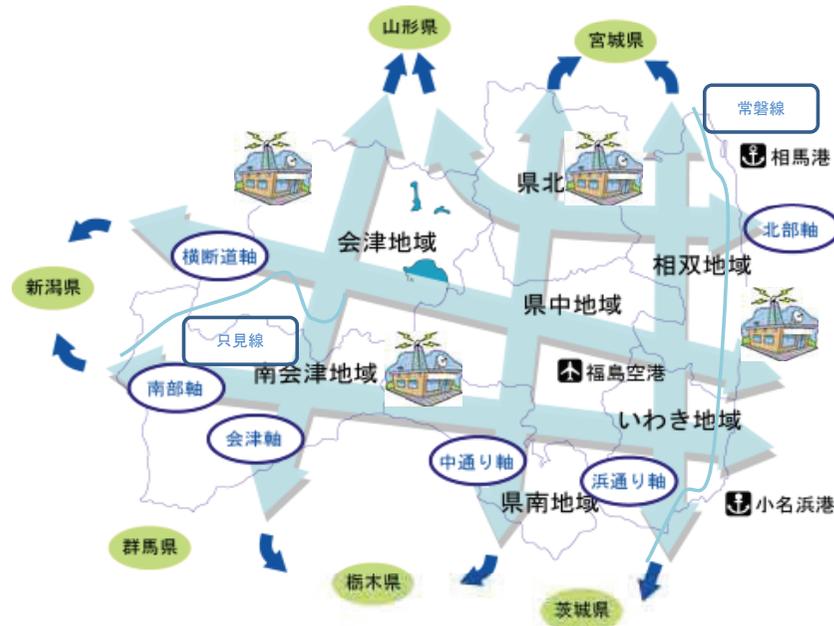
1 2 県土連携軸・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト

目指す姿

かねてから県土のグランドデザインとして整備を進めてきた 6本の連携軸、福島空港、小名浜・相馬港の機能や情報通信基盤の強化された新たな県土が形成されている。

プロジェクトの内容

- 1 浜通りの復興の基盤となる「浜通り軸」の早期復旧・整備と、生活を支援する道路の整備
- 2 浜通りと中通りをつなぐ復興を支援する道路や 西連携道路など、災害に強く本県の復興を推進する道路ネットワークの構築、避難区域等の復興を加速させるための戦略的的道路整備
- 3 福島空港、小名浜港、相馬港の早期復旧・機能強化による、本県の物流、観光の復興を支える基盤の整備
- 4 JR常磐線・只見線の早期復旧
- 5 災害時における広域的な連携・連絡体制の構築



12 県土連携軸・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト

(基幹的な道路・地域連携道路)

県土の骨格をなすネットワーク図

【基幹的な道路】

- ・県土の骨格となる道路
- ・県外と結ばれ生活圏の中心都市を連絡する道路

【地域連携道路】

- ・基幹的な道路を補完し、隣接する生活圏を相互に連携する道路
- ・基幹的な道路と一体的な道路ネットワークを形成する道路

※「ふくしま道づくりプラン」の類型区分による。

凡 例

基幹的な道路	（赤線）
地域連携道路	（緑線）

新潟県



戦略的道路整備として、避難指示区域等から周辺の主要都市や高速道路までのエリアにおける道路整備について、概ね10年間の概成を目指す。

復興ビジョンにおける3つの理念の下、7つの主要施策を実現するために必要な具体的取組や年度計画、取組主体を位置づけ記載した。

今後、本県においては、復興を成し遂げるため、これらを最優先に取り組む。

「具体的取組」の構成

緊急的対応

心急的復旧・生活再建支援・市町村の復興支援

- ① 被災者住居の確保と幅広い生活支援・心のケア
- ② 生活基盤・産業インフラの復旧
- ③ 被災者の緊急的な雇用の確保と被災事業者の事業再開支援
- ④ 教育・医療・福祉の維持確保
- ⑤ 治安体制の整備
- ⑥ 広域避難している県民のきずなの維持
- ⑦ 市町村の復興支援
- ⑧ 原子力災害への緊急的対応

ふくしまの未来を見据えた対応

未来を担う子ども・若者の育成

- ① 日本一安心して子どもを産み、育てやすい環境の整備
- ② ふくしまの再生を担うこころ豊かなたくましい人づくり
- ③ 未来に羽ばたく若者の夢実現

地域のきずなの再生・発展

- ① 避難住民の住環境、社会環境の整備
- ② 避難住民とともに生み出す地域の活性化
- ③ 新たなきずなを生かした広域的連携の推進
- ④ ふるさと帰還後の新たなコミュニティづくり
- ⑤ ふくしまの宝を再発見し、磨きをかけ、発信する活動の推進

新たな時代をリードする産業の創出

- ① 本県産業の再生・発展
- ② 新たな社会にふさわしい産業の育成と雇用の創出
- ③ 新たな経営・生産方式による農林水産業の飛躍的発展
- ④ 産業の再生・発展に向けた基盤づくり

災害に強く、未来を拓く社会づくり

- ① ハード・ソフト両面から防災機能が抜本的に強化されたまちづくり
- ② ふくしま及び東北を支える新たな県土づくり
- ③ 自治体間・地域間の連携強化や相互応援による防災力の向上
- ④ 将来像を共有しながら進める災害に強い地域づくり
- ⑤ 災害時にも安心できる保健・医療・福祉提供体制の構築
- ⑥ 防犯・治安体制の強化
- ⑦ ソフト面での対策としての防災・減災対策や防災・減災教育の強化
- ⑧ 災害記録・教訓の世界への提言や次世代への継承

再生可能エネルギーの飛躍的推進による新たな社会づくり

- ① 省資源・省エネルギー型ライフスタイルのふくしまからの発信
- ② 再生可能エネルギー産業などの飛躍的発展

原子力災害対応

原子力災害の克服

- ① 全県におけるモニタリングの充実・強化
- ② 身近な生活空間における徹底した除染の実施
- ③ 全県における環境の回復
- ④ 全ての県民の健康の保持・増進
- ⑤ 原子力災害を克服する産業づくり
- ⑥ 原子力に係る機関の誘致及び整備
- ⑦ 原子力発電所事故に関連する情報開示
- ⑧ 原子力発電事業者及び国の責任による、原子力災害の全損害に対する賠償・補償に向けた取組